

おれいのきもち

パリ日本人学校 小学部一年 柏崎 日向子
(かしわぎき ひなこ)

わたしは、いつも、しちじにねむるやくそくです。でも、はちじまでおふとんにはいると、おかあさんに、ほんを一さつよんでももらえます。しちじはんまでに、おふとんに入ったら、おはなしもしてもらえます。しちじまでにおふとんにはいたら、おはなしと、ほんをさんさつよんでももらえます。ほんをよみおわたたら、まいにちかならず「きょうのおれい」をいいます。そのひーにちで、一ばんたのしかったことや、うれしかったことをおもいだします。どんなことでもいいです。だれにいつてもいいです。ともだちや、かぞくや、ものや、じぶんだっていいです。

たとえば、

「きょうのおれいは、おとうさん。かいしゃからはやくかえってきてくれて、どうもありがとうございました。うれしかったです。」
と、いいます。おれいをいったあとの、わたしのきもちは、ほんわかしています。ほんわかのまま、

「おやすみなさい。」

といて、ねむります。どうして、まいにち、おれいをいつてからねむるのか、おかあさんにきいてみました。おかあさんは、

「おれいは、かんしゃのことば。かんしゃはされたひとも、したひ

ともうれしいの。うれしくなって、きもちよくねむれたら、しあわせじゃない。」

といました。

わたしの、おれいのことばは、かぞくにしかきこえないけれど、おれいのきもちも、たくさんのひとやものに、とどいていたらいいなどおもいます。

わたしが、おかあさんになっても、じぶんのこどもに「きょうのおれい」を、いわせたいです。なぜなら、わたしみたいに、ほんわかしたきもちで、ねむれるようにしてあげたいからです。

ほんとうだ。おかあさんのいうとおり、おれいをいうと、すごく、いいきもちになれるね。ことばって、あったかいね。